

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気大切に、一人ひとりに沿ったケアを提供し、支援していく。各棟においての理念も掲げ、職員全員で確認している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をいつも心において、迷ったときはいつもその理念に帰れるように職員と確認している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に理念を提示し、また見学時などに説明するようにしている		家族や地域の方々との会話を増やしていきたい
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外への散歩時には積極的に近隣の方々とは会話するように努めている		日常的なつきあいがさらに深まるように催事を行なう時に声掛けしていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に加入しており、祭りやもちつきなどの地域活動に参加し、交流するように努めている		学校や保育園など枠を広げて取り組んでいきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的な取り組みは行なっていないので、情報収集し、体制を整えていきたい		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を受け止め、改善できるように努力している		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催している。今年からは家族や自治会に加えて市役所の方も参加してもらい意見や要望などを聞いている		会議での意見を参考にし、実践していけるように努力した
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との行き来はあるが、サービスの質までの向上まで出来ていないのが現状である		サービスの向上が出来るように努力していきたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見人制度を利用する方がいないため、制度を学ぶ機会を作りたい		研修や勉強会などを開き、積極的に学んでいきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての知識を深め、ミーティングの時などにスタッフから話しを聞くようにしている		虐待にあたる行為などが見られる場合は速やかに管理者に報告するよう徹底している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時など、家族の疑問や不安などを聞き、取り除けるように努めている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が不満、苦情などを伝えられる環境を努めている</p>		外部者への表せる機会を作っていきたい
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には健康状態、暮らしぶりなどの報告はしている。面会の少ない家族にも定期的な電話連絡をしている</p>		職員の異動を家族に連絡できるように努めていきたい
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が意見・不満・苦情を言えるような環境を作るように努力している</p>		家族から運営について意見があった場合、即座に上司に報告している
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1度のミーティングの時や申し送り時などに職員の意見・要望を聞く機会を作っている</p>		管理者は、ミーティング時または個別に職員とコミュニケーションを取るようし、良い意見・提案や改善すべき点など反映させるように管理者会議などで発表している
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の希望を取り入れ勤務調整をしている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が安定した生活が送れるように利用者 職員の信頼関係を大切にしたい</p>		離職者・異動が最小限におさえられるように努力していきたい

グループホームさくら(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年9月に社協の研修に参加した。基礎課程研修も抽選に漏れるなどしたが、再度申込をしている最中である。また市で行われる研修は積極的に参加した		研修・講習の参加を促し、一人ひとりのモチベーションを上げていきたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流がなかなかできていない		他のグループホームへの見学なども行ないたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務の希望休などを聞き入れ、職員が無理な勤務にならないように努めている		取りにくい有給休暇も取りやすくするため、勤務調整の際に職員に声かけしている
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	評価を正確にし、向上心を持てるように励ましている		自己評価表を作り業務全般について自己採点をしてもらっている
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談時から本人と話し合いを持ち、ニーズを把握するようにしている		少しの間でも本人と会話ができるようにつとめていきたい
入居者と職員とが本当の家	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と話し合いを持つようにし、家族に意見を求めることもしている		家族のニーズをしっかりと受け止め、共に考える姿勢を保ちたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの見極めができるように本人・家族とよく話せるように心がけている		他のサービス利用も含め、家族に話し合いが出来るように努める
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員一人ひとりが円滑にサービス提供できるように努力している		家族にも協力を得ながら、同じサービスが提供できるように配慮していきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	様々な作業を一緒に行い、本人が活躍できる場を作っている		今後も継続していき、共に過ごす時間を作っていきたい
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とよく話し合い、ともに考えていく姿勢を保っている		様々な行事などにも家族が参加でき、本人も喜べるように努力していきたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	電話連絡だけでなく、時には面会もお願いしたりして、家族と本人が安心できるように支援している		今後も本人と家族が良い関係が築けるように支援していきたい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親類のかたにも気軽に来訪してもらえるように配慮している		継続して努力していきたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	調理や縫い物、ちぎり絵など、共同でできる作業は積極的に行なっている		職員一人ひとりが利用者同士の関係や問題をいち早く把握できるように努力していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	手紙やはがきなどで連絡し、近況を聞いたりして、アドバイスしている		他施設へ移った利用者を訪問したりして近況を把握していきたい
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と向き合って話すようにしている		もっと本人と話せる時間を作り、何気ない言葉からも汲み取れるように努めて生きたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に直接聞いたり、家族から情報を得るようにしている		継続して努力していきたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員や入居者の話から状態を把握するようにしている		他者からの話しも聞き入れたり、本人の話しからも把握していくようにしたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のケアカンファレンスを設け、課題と問題解決に向けて、介護計画を作成している		継続していき介護者一人ひとりの意見を反映できるようにしていきたい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月ごとのモニタリングを実施し、緊急を要することが生じた場合は職員・家族と話し合い、計画を作成する		状態の変化により、計画が変更になった場合には、柔軟に対応していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は時間別に記入し、業務日誌・医療記録などにも必要なことを記入している		継続し、介護者一人ひとりの観察力を計画に見直しに生かせるように努めていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	市の秋祭りやもちつき大会などに参加するようにしている		当グループホームを開かれたものにするため、これからもさらに様々な行事に参加していきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアの協力や生花、訪問美容なども実施、皆さん喜ばれている		地域の他の事業者との交流や保育所などのかかわりも持っていきたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じてケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援を行なっている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	総合的なケアマネジメントなどについて地域包括支援センターと協働している		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・外科・精神科とも近隣のかかりつけ医に協力していただき、急変時にも対応していけるよう入居者の日頃の状態を診察時に報告している		今後も協力機関とは密接な関係を築いていきたい

グループホームさくら(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力機関より、認知症に関する適切な指示をもらっている		協力機関の医師と連携し、支援していきたい
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師との連携により、相談・対応が来ている		これからも日頃の健康管理のことを気軽に相談していけるように連携を取ると共に、看護師にも入居者とコミュニケーションを積極的に取ってもらう
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院者の現状を常に把握し、医師に報告したり、相談したりしている		今後も医療と連携する
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合に、できるだけ早い段階に家族・医師とは話し合い、職員間でも方針を共有している		職員間の意識の違いや知識の違いをなくすためにこれからも常に話し合っていきたい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族・医師・と連携を取り、できる限りのことを尽くせるように支援していきたい		以前の経験から、ADLが低下し、ベッドから起き上がりにくい方に対して、電動のベッドを取り入れた
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	良い面・悪い面とも家族・ケア関係者間で話し合い、本人に負担がかからないように努力している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人ひとりの人権を尊重していくように考えている</p>	<p>職員全員に入居者一人ひとりを尊重していくように徹底していきたい</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人と向き合って話し、何気ない会話から思いや希望が表せるように支援している</p>	<p>常に入居者の立場で考えるように職員の意識の統一をしていきたい</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人に決定してもらうように心がけ、職員はそれに援助していく形を大切にしている</p>	<p>本人が希望をはっきり言えるような環境を作っていきたい</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>着用する服は基本的に本人に選んでもらうように支援・理美容については家族の意向も取り入れて決定する</p>	<p>本人が楽しんで身だしなみ・おしゃれができるよう支援したい</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事前後の準備は入居者の方が主体となって行っている。お茶くみ、台拭きなど一人ひとり役割を持って行っている</p>	<p>ひとりひとりの役割が定着しているが任せきりにならないように見守りにも注意したい</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の嗜好を把握し、状況に応じて食べ物の形態を変更したりしている</p>	

グループホームさくら(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表に記入することにより、排泄パターン把握できるよう努力し、個人個人で違った時間にも実施できるように努力している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>2日に1回のペースで入浴を行っているが、入居者の状態によっては臨機応変に入浴ができるように対応している</p>		<p>入浴者一人一人が入浴を楽しみに生活していけるようにゆっくりと時間をかけて入浴介助したい</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>眠れないときは話し相手になったりお茶を飲んでもらうなどして本人が安心して休めるようにしている</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事の準備・掃除・散歩・皿洗いなど役割を支援している</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>全員が現金所持することを目標としているが、トラブルなどもあるため、現在一人のみの所持となっている</p>		<p>本人がお金を持つことの大切さは職員も理解しているので、買い物の機会を増やして本人にお金を出し、社会性を引き出していきたい</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物や散歩などでできる限りの時間で一人一人に沿った希望で外出できるように努力している</p>		<p>夏季はミニトマトやキュウリの収穫などに積極的に畑に出るようにしている。また買い物にも同行していただき、気分転換を図っている</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族の協力で墓参りや外泊などもできる機会を作っている</p>		<p>お誕生日会のときなどは出来る限り入居者の方が行きたい所に行けるように努力している</p>

グループホームさくら(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望により一部介助している。手紙はいつでも送れるように支援している		遠く離れたお孫さんへ手紙のやり取りをすることが定着した入居者の方もいる。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるように配慮している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対に禁止であることを職員には認識させている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しているが、ホームの構造上転倒の危険性があったりするところにはやめなく鍵をかけている		なるべく鍵をかけないように見守り、細心の注意を払いたい
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通してプライバシーに配慮しながら様子見や動向を把握している		細かい行動変化にも注意ができるように配慮したい
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全を確保しながら、物品管理は行っている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための知識を得るため、研修に参加したり、服薬については必ず再確認するようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	地域の消防の訓練を受けたりしている		さらに徹底し、知識を深めることができるように取組たい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時にスムーズに動けるようにマニュアルをつくっている		防災訓練を実施し、消防署の方に消火器の使い方なども教わった
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族にも説明と同時に意見も得られるようにしている		ケアプランを説明するときなどに、起こりやすいリスクを説明し、了解を得ている(特に転倒)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、夜間の睡眠状態、排泄状態など各記録に記入し、じょうほうは申し送り時に伝達するように徹底している		本人との会話、表情、訴えなどよく観察するように注意を払いたい
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別の薬の写真と効能と副作用などをまとめ、ファイルし職員が見てわかるようにしている。薬の管理は職員が行うが、服薬は自分でできるように見守り、支援している。		誤薬がないように細心の注意を払い、症状の変化など、記録につけるなど、配慮していきたい
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	気候のよい季節は散歩に出たり、廊下を歩行したりして、運動も取り入れている。また、水分補給は積極的に行っている		すべて薬に頼ることなく継続していきたい。また便秘がある入居者に対しては日頃の観察を欠かさず行いたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は声掛け、見守りまたは介助により、口腔ケアを行っている		義歯の方も自分で綺麗に洗浄できるように支援していきたい

グループホームさくら(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量など、記録表に記入し一人ひとりの分量を把握している		継続し、一人ひとりの状態を把握できるように努力する。水分摂取が少ない方には少量を回数を増やすなど工夫していききたい
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	情報・知識の共有をし、マスク・手洗い・消毒など行っている。手すりやトイレなどの共用部分の消毒には塩素水を常に使用している		職員全員が情報を把握し、知識をつけられるように実践していききたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の掃除・消毒は常に毎日するようにしている		継続していききたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の外にはスロープや手すりなどが設置されている		ホームに入りやすい雰囲気になるよう玄関先には生け花の先生に花を生けてもらうなど協力していただいている
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所を対面キッチンにし、リビングでくつろぐ入居者を見守ることができる。		窓も大きく明るい空間が確保できている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置しているので、一人にいたいときにはいつでも集団から離れられるようにしている。また隣の棟にも気軽に出入りできるようにしている		別棟の入居者の方が来られても声掛け・歓迎の念で接するように指導している

グループホームさくら(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものを持ち込んでもらうように家族にお願いしている		入居者の希望も取り入れ継続していきたい
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除には必ず窓を開け、また午前中は入居者全員がリビングにすることが多いので、その間は居室の換気に努めている		入居者の希望も取り入れ継続していきたい
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器の方も自らトイレに行けるように広いトイレを設けている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレやふる場などは大きく表示している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候のよい季節はベランダでおやつを食べたり、ベランダにイスを置いて外の空気に触れるようにしている		構造上、庭へ出るために階段を降りなくてはいけないので、新たに手すりを設置した

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホームさくら(西棟)

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者と職員とが本当の家族のように毎日を共にし、喜びや悲しみも分かち合う場所を目指しています。また異動してきた職員と家族との信頼関係も作っていけるように努力をしている最中であります。